

高岡市の文化施策に関する意見要旨

文化施策に関する市民懇話会

1 芸術・文化活動の意義と現状

(1) 芸術・文化活動の意義

- ・芸術・文化活動は、家庭や職場とは異なるいわゆるサードプレイスで、世代を超えて楽しめるものである。
- ・人とのつながりや世代間の交流を通じた心の豊かさが得られ、活動の中で子どもにとって情操が豊かになる瞬間が確かに感じられる。加えて、教養、感動、ときめき、生きがいも得られ、健康の保持にもつながる。
- ・このような芸術・文化活動の意義は、時代の変化に左右されることなくもたらされる。
- ・活動をしていない方に比べて、実際に活動している芸術文化団体等の方のほうが、これらの効果を強く実感していることが、今年度市が実施した市民意識調査の結果からも読み取れる。

(2) 高岡市における芸術・文化の現状と課題

- ・他市、他県出身者の目線から、高岡には他地域と比較して豊富な文化があり、市民が芸術・文化に触れる機会が多いと評価できる。
- ・暮らしのすぐ側に芸術・文化がある環境が、日常生活や子どもたちの成長に芸術・文化は大切であると考え市民意識を育んでおり、その意識の高さは他地域と比較しても高い水準であることが市民意識調査結果より読み取れる。
- ・すべての市民が本市の文化資源の豊かさを認識・評価しているとは言えず、情報発信やブランディングに課題がある。
- ・伝統芸能、地域の祭礼、生活文化などを中心に、芸術・文化活動の担い手不足が深刻化しており、子ども・若い世代の参加機会の拡充が大きな課題となっている。

2 今後の市の文化施策に期待すること

(1) 活動支援

- ・人口減少・少子高齢化の進行と、芸術・文化の多様化が進み、ひとつひとつの芸術・文化活動に関わる担い手は縮小していく。
- ・新たな担い手、特に子ども・若い世代に関心を持っていただくためには、アーティスト等が時代に応じて新たな活動（異分野との連携など）を取り入れるなど、より多くの市民の共感を得ていくことが大切である。
- ・市は、自ら変化し、新たな活動に挑戦しようとするアーティストや活動団体に対し、機会の提供や新たなスキルの習得などに向けた支援を行っていくべきである。
- ・文化とは「人の営みに関する様式すべて」であり、過去から継続されるものだけが対象ではない。時代の変遷とともに芸術・文化の対象となるコンテンツの幅は広く、更に多様化することが見込まれる中、楽しむ人が今はまだ少なくとも、若い人が面白いと思っている文化に注目し、将来のために育てるといった柔軟性も求められる。

(2) 子どもの体験機会

- ・子どもたちにとって、地域内外の多様な世代とつながり、情操を豊かに育み、創造的な思考を育てるために、芸術・文化は大きな役割を持つ。
- ・市、学校、地域、芸術・文化団体等が連携を図り、より多くの子どもたちに対し、芸術・文化を体験できる機会を提供する取組みを強化すべき。
- ・芸術・文化活動を始める契機が、知人、家族という身近な人からということが多い傾向や、子育て世代が家族とともに鑑賞・活動機会を求める需要があることから、家族で体験できる機会を作るような視点も重要であり、その中で大人も高岡の文化を学ぶことができればよい。

(3) 文化施設のあり方

- ・将来的に生産年齢人口が減少し、行政の財政縮小が見込まれる中、これまでは専門的な施設が存在したかもしれないが、この後は統合や機能を見直すことなどが必要になる。
- ・市民意識調査結果でも、集約・統合または現状維持を望む回答が多く、特に若い世代では集約・統合を望む傾向が高い。
- ・ICT技術の進歩等に伴い、幅広く自分の関心に近いものを楽しむことが増えた現在において、大人数で同時に鑑賞を行う施設は、無理に負担をしてまでは必要ないというのが現実的な市民の声と捉えるべきではないか。
- ・市民会館が閉館して寂しいという声がある。記念大会などの場合に1,000席規模の施設があるとよいが、現在、県が高岡テクノドームに多機能の別館整備を進めており、そのような大会等に活用できるかを見極めていくことが大切である。

(4) 情報発信

- ・高岡には豊富な文化があり、市民が芸術・文化に触れる機会は多い。そのことを多くの市民が認識し、本市の強みとして評価していただくため、市やアーティスト、活動団体等が芸術・文化活動の意義や魅力を分かりやすく発信し、市民の共感を得ていくことが必要である。
- ・公演・展覧会などの情報を得るのは難しい。活動者がタイムリーに発信をすること、SNS等の多様な媒体を活用することが大切であり、ブランディングや発信頻度などをコントロールするキュレーターのような役割ができる人材育成が必要である。

鑑賞・活動・運営・支援など、芸術・文化活動に多様な形で関わる市民の裾野が広がり、活動に必要な資金や新たな担い手の参入などの継続的な循環が生まれ、芸術・文化活動の持続可能性が高まることを期待する。